Lead

All roads lead to the future リード

高知大学
Kochi University

コミュニケーションペーパー
2017 Winter 冬号

¥0 TAKE FREE

〈特集〉

高知大学への期待
～高知大学の可能性を語る～

元厚生労働事務次官 村木 厚子さん × 高知大学長 脇口 宏

まなびの時間
医学部医学科 医療面接実習

ぼくらのキャンパスライフ
スポーツチャンバラ同好会

キラ星高知大生
韓国と高知をつなぐ懸け橋に

高知大学ニュース

高知大学で開催するイベントをご紹介します。

Event information イベントインフォメーション 2017 Winter 冬号

第16回高知大学 卒業制作展

1/24(火)～29(日) 入場無料

教育学部生涯教育課程芸術文化コース（美術）の卒業制作展です。本展覧会は、今年度で第16回をむかえます。各自の研究テーマに沿って制作された作品が出展されます。ぜひご覧ください。(日本画・西洋画・彫刻・デザイン)

時間 9:00～17:00(最終日は16:00まで)
場所 高知県立美術館　県民ギャラリー

平成28・29年度 式典のお知らせ

平成28年度高知大学
大学院修了式 学部卒業式
3/23(木)
場所 高知県立県民文化ホール

平成29年度高知大学
大学院・学部入学式
4/3(月)
場所 高知県立県民文化ホール

平成29年度 入試案内

	募　　集	出願期間	試験日	合格発表	入学手続期間
推薦入試Ⅱ	教育学部学校教育教員養成課程 幼児教育コース／教育科学コース・教科教育コース	1/17(火)～20(金)	2/4(土)	2/8(水)	2/9(木)～15(水)
	農林海洋科学科		1/29(日)		
AO入試Ⅱ	教育学部学校教育教員養成課程 （科学技術教育コース）	1/17(火)～20(金)	2/4(土)	2/8(水)	2/9(木)～15(水)
	土佐さきがけプログラム （生命・環境人材育成コース）		1/29(日)		
一般入試 前期日程	全学部	1/23(月)～2/1(水)	2/25(土)・26(日)	3/7(火)	3/8(水)～15(水)
	土佐さきがけプログラム （グリーンサイエンス人材育成コース）				
一般入試 後期日程	全学部 （医学部医学科・地域協働学部を除く）	1/23(月)～2/1(水)	3/12(日)	3/23(木)	3/24(金)～27(月)

インターネット出願導入しています！

四国の国立5大学（徳島大学、鳴門教育大学、香川大学、愛媛大学、高知大学）が共同で開設するインターネット出願サイトからも出願を受け付けます。
あらかじめ利用登録をするだけで5大学への出願がスムーズに行えます。

・大学案内・選抜要項等の資料をパソコン・携帯電話からテレメール請求できます。
インターネットの場合（携帯電話・パソコン） http://telemail.jp
※携帯電話・パソコンとも共有アドレスです。(iモード・EZweb・Yahoo!ケータイ)
※スマートフォンでのアクセスも可能です。

入試に関するお問い合わせ先（ご意見・ご質問にお応えします。）
学務部入試課 TEL.088-844-8153
E-mail nys-web@kochi-u.ac.jp

・入試に関する最新情報（随時更新中）
http://nyusi.kochi-u.jp

メルマガ配信中！
月2回配信（第2・4金曜日）
高知大学からメールマガジンを配信しています。大学の「入試情報」から「あれこれ（これは面白い）」まで!!
登録はこちら http://daigakujc.jp/kochi-u

●お問い合わせ先　皆様からのご意見・ご感想をお待ちしております。

高知大学 Kochi University
高知大学総務課
高知大学 検索
http://www.kochi-u.ac.jp/
TEL.088-844-8643 FAX.088-844-8033
〒780-8520 高知市曙町2-5-1 E-mail:kh13@kochi-u.ac.jp

高知大学の最新情報を伝えたい
THE こうち ユニバーシティ CLUB
FM 高知 81.6MHz
毎週日曜日放送中 (9:30～9:55)
高知大学のHPから過去放送分も視聴できます！
http://www.kochi-u.ac.jp/outline/kouhou/radio_fmkochi/
高知大学の教育、研究、地域貢献等のホットな情報をお届けします。
スポンサー企業
高知銀行／ソフテック／アークエステート

〈特集〉高知大学への期待　～高知大学の可能性を語る～

元厚生労働事務次官
村木 厚子さん × 高知大学 脇口 宏 学長

平成28年10月30日、元厚生労働事務次官で高知大学OGの村木厚子氏が、朝倉キャンパスで行われたホームカミングデーに合わせて来学されました。記念講演の講師を務めていただくとともに、脇口宏学長と対談。高知大学への期待や地域に果たす役割について、大いに語っていただきました。

地域と丸ごと連携できるのが高知大学の強み

脇口　最近、地方創生に向けて、地方大学の役割が強く期待されています。しかし、地方創生が成功するためには、まず東京が出生率を上げて、地方から東京に若者が行くだけでなく、東京からも地方に若者が移ってくるという双方向の人材の流動性が必要です。では、地方大学である高知大学が教育力と研究力を生かして地域に対して何ができるのか。村木さんは長年、中央省庁で働いてこられました。その経験から高知大学が地方創生で果たす役割についてどのようにお考えですか？

村木　確かに出生率についても、東京が改善しないと問題は解決しません。一方、地方の出生率も下がってはいけない。地方はまだリソース（資源）を都会に提供している状態ですが、地方の力をいかに強くできるのかが、この国の運命を握っていると思います。

ただ、研究費や学生数に関しては、都市部の大学が上回っており、地方大学の単独の力では太刀打ちが難しいと思います。しかし、地方大学の強さは地域が味方してくれるところ。

集落活動センター：チーム稲生の部会の活動として実施している、びわの葉茶作りを体験（地域協働学部1年、実習科目「地域理解実習」）

学生の学びの充実に向けて大学ができることとは

脇口　大学は、「教育」「研究」「社会貢献」の3つの柱をしっかり立てなければならないと思います。なかでも教育は重要で、学生にとって大学は社会に出る一歩手前、最後の勉学の場です。ここで教えることは、社会で活躍する糧となるものでなくてはならないし、学生も頑張ればいいというだけでなく、成果を出さなくてはいけない。大事な年齢の若者を預かるわけですから、私たちはいかにその責任を果たすかを考えなければなりません。そのためには、教員も学ぶ姿勢を背中で見せなければ学生はついてこない、と先生方に話しています。

村木　18歳から22歳というのは本当にいい年齢ですよね。たとえ30代、40代のときに4年間学んでも、この世代のときの何分の一しか身につかないものです。彼らをどうやって育てていくか、教職員の方の責任は大きいですね。どうやって学生のチャレンジする気持ちを育て、学ぶ方法を身に付けさせるか、大学時代に学ばなければならないことは本当にたくさんあります。

脇口　特に初年次教育、共通教育が重要だと考えています。最初に大学で学ぶということの意味が心に響かなければ、なかなか勉強が進みません。とかく専門教育が重要視されますが、広く教養が身に付く共通教育があってこそ専門教育が生きてくるのです。たとえば医師になったとき、患者さんやその家族の気持ちに寄り添えるようになるためには、社会常識と教養が必要です。しかし、専門教育の量が多い医学部では、なかなか教養教育に力を入れられないのが現状です。

村木　私が高知大学の先生に教わったことで、社会人になってから職場の後輩たちに伝えていたことがあります。それは、人の仕事の能力をどのように測るのかというものです。ある人はAという仕事を1単位、Bを2単位、Cは専門分野で7単位、Dを1単位、Eを1単位やったとします。すると、この人の仕事の射程距離は、一番専門で長くやった7に、AからEの5つの間口の広さをかける7×5になると教えられました。専門性は大切ですが、間口1だけだと掛け算が利いてきません。違う分野にも携わることで仕事の幅が広がり、掛け算で能力が高くなると。仕事をしてみて、本当にその通りだと思いました。

脇口　私がいつも言うのは、専門性を高くしたければ砂山をつくるようにしなければたとえば、東京の大学が東京都と連携して何かを行う、という取組はなかなかできません。

一方、高知大学では高知県や高知市、あるいは地域の皆さんと連携できる。これは、地方大学である高知大学の最大の強みだと思います。

脇口　地域と連携するためには、県民や市民の皆さんに高知大学をよく知ってもらって、信頼できる大学だと認識してもらわなければいけません。そのためには、私たち大学が地域に出て、大学の情報を発信していかなければならないと思います。

いの町是友公民館：学生が企画発行した「是友地区広報誌「BOIL」お披露目（地域協働学部2年、実習科目「事業企画プロジェクト実習」）

村木　かつての大学は学内で完結しているものでしたし、大学の研究者の中には大学がある地域に思い入れのない方もおられたでしょう。そういう環境のなかでは、地域に開かれた大学という発想はなじめなかったと思います。それが近年、高知大学では「高知にある大学」としてどうするか、ということを考えてくださるようになりました。

元厚生労働事務次官
村木 厚子（むらき あつこ）さん
高知県出身。昭和53年3月、高知大学文理学部経済学科卒業。同年、厚生労働省（旧・労働省）に入省。内閣府政策統括官、厚生労働省社会・援護局長などを歴任。平成25年厚生労働事務次官に就任し、27年に退官。28年、高知大学地域協働学部客員教授に就任。

高知大学長
脇口 宏（わきぐち ひろし）
愛媛県出身。昭和46年、岡山大学医学部卒業。54年から高知医科大学（現・高知大学医学部）に小児科医として勤務。平成13年、高知医科大学医学部教授、20年、高知大学医学部長を経て、24年に高知大学学長に就任。現在に至る。

ならないということです。砂山を高くするためには、すそ野が広がらなければ高くなりません。広い教養のすそ野の上にこそ、高い専門性を築くことができるのです。

村木　高知大学のメリットは、学生と教員の距離が非常に近いところにあると思います。これは、学生にとって最大の武器。先生方には本気で愛情を注いでいただかなければなりませんが、マンモス大学にはない素晴らしさですね。私が学生のときも、自主ゼミや読書会、勉強会などに付き合ってくれる先生が多く、そうすると少人数で先生を独占できるので、とても贅沢な環境で教えていただくことができました。

脇口　もっと学生たちに寄り添い、「この先生ならば相談に乗ってくれそうだ」という雰囲気をつくっていきたいと思います。距離が近いということは、ときには反発もあるのですが、そうしたことは社会でもよくあること。それをどうやって調整して、いい関係を築けるか。反発した後で親友になることもよくある話ですから、大事なことです。

地域の魅力の発掘に大学が果たす役割

村木　高知の人柄というのは、新しいものが好きで率直。あまり奇をてらわずに正面からぶつかっていくと、きちんと反応が返ってくるところです。そういう意味では、大学がどんどん地域に出ていけば、理解を得て、応援団が増えるのではないでしょうか。

地域協働学部が創設されたことは、全国でも初めての試みだったこともあり、非常にうれしかったです。実は今年、県内のある市町村から、地域協働学部の学生に地域に入ってほしいとの伝言を頼まれました。学部の名前が浸透し、とても期待されているということが実感できて、とてもうれしかったです。

脇口　地域協働学部の存在が知られるようになってきましたし、地域の方の理解も深まってきたと思います。いいとこどりだけをして去っていく学部じゃない、ということをわかっていただけたのでしょう。

高知には素晴らしいものがたくさんあります。もっと全国に向けて宣伝し、ブランド化すればいいと思いますが、高知の人にとっては当たり前で気が付かない。そのことを伝えるのに、本学の教員や学生が適任です。

村木　高知大学には、他の地域から来た学生や教員が多数いますからね。適度に新しい人が来ることで、高知の良さが発掘できる。よその人の目で見てもらってはじめてわかる良さがあります。地域協働学部をはじめ、さまざまな学部がIターンやUターンの人たちとも一緒になって、地域全体を盛り上げていけたら面白いですよね。

脇口　そのためには、地域に力がついてこないといけませんね。地域の産業力とともに必要なのが、教育力だと思います。高知県内のどの地域も、高知市内と同等の教育を受けられるようにならなければ、特に中山間地域の創生はあり得ません。そのような教育環境の中で、中山間の豊かな自然と触れ合い、地域の人たちに温かく見守られて育つ子どもたちが次代の日本を発展させるエンジンになります。

教育学部には、高知県の教育力をあげるようにハッパをかけているところです。

村木　高知大学は中央から離れており、規模が小さいということもあって、個性を発揮するには知恵を出さないといけません。しかし、可能性は高いですよね。地域協働学部のようなユニークな学部ができ、さらに新たな学部の改編も進んでいます。ますますパワーを発揮できるチャンスが出てきたように感じています。

脇口　学生たちが「自分たちで何とかするのだ」というようなうねりを起こしてくれれば、ずいぶん変わると思います。若者のエネルギーはすごいですから。そのうねりを起こす仕掛けを、教員が作り上げていかなければいけない。

学生たちは大学を卒業し、就職した時に、自分たちが社会や組織をもっと良くしようという意識と意欲を持たなければいけません。そして、その意識がさらに広がって、自分達の国をどうやって活性化し、もっと発展させるのかを考えていくようになってほしい。それが国立大学で学ぶということであり、そのような人材を育てることが国立大学の務めだと思います。

村木　私も高知大学の活動を支えられるよう、中央とのパイプ役として、これからもマッチングなどにお役に立てればと思います。

脇口　本日は貴重なご意見、ありがとうございました。

再録・ホームカミングデー記念講演会

高知家総活躍！

元厚生労働事務次官
村木 厚子氏

記念講演会では「高知家総活躍！」をテーマに、約1時間にわたって講演。約200人の聴衆が、高知県の可能性を語る村木氏の話に耳を傾けました。講演の内容を抜粋して紹介します。

少子高齢化社会に見る3つの希望とは

日本は、人口減少の時代に入りました。特に生産人口といわれる15～65歳の人口がどんどん減少し、一方で高齢者はしばらく増え続けるため、50年、100年後には1人の現役で1人の高齢者を支えるという大変な時代が来ることが予想されています。しかし、望みが2つあります。1つ目の望みは、変えられる未来もあるということ。2つ目は、女性や高齢者、障がい者などの人たちが持つ、使われていないパワーがたくさんあるということ。

しかし、社会保障費は伸び続けます。そこで、働き手を増やして税収を増やす一方で、社会保障費をコントロールして抑制しなければなりません。社会保障費をコントロールするために、現在、国は「社会保障と税の一体改革」を進めています。消費税を上げて財源を確保する一方で、社会保障は必要なところを充実させて無駄をなくし、筋肉質なものとしていくなどの取組を行っています。

誰もが参加できる社会の実現に知恵を絞る

では、働き手を増やすためにはどうすればいいか。そこで、女性や高齢者の活躍が望まれます。残念ながら日本は、女性の活躍が非常に遅れています。その原因として、日本の女性は、子育ての時期に仕事を辞めざるを得ない状況にあることがわかっています。

子育てをしながら働き続けるために大切なのは、労働時間と職場の雰囲気です。また、夫が家事や育児に参加する家庭ほど、妻は継続的に仕事をし、さらに第2子以降の出生割合も増えることがわかっています。女性が活躍するためには、女性と男性が、緒に、そして、会社や社会全体が変わらなければなりません。

高齢者のパワーをいかに生かすかも、これからの社会の課題です。最近では65歳まで働く人も増えてきましたが、かつての日本は自営業や農業に従事している人が多く、65歳以上の労働力はもっと高いものでした。また、高齢者の就業率が高い地域ほど、後期高齢者医療費が低い傾向にあります。健康には「生涯現役」が一番です。高齢者は元気で働く一方、必要に応じて医療や介護のサービスを利用する。すると医療・介護分野でいい雇用が生まれ、若い人はそこで働きながら子育てができるようになる。このような好循環をつくることができれば、高齢化県でも地域経済が疲弊することはないと思います。

障がい者も大きなパワーです。現在、日本の生産年齢人口の中で障がい者は320万人で、その中で働いている人は数十万人といわれています。うれしいことに、最近の障がい者雇用を見てみると、12年間過去最高を更新中です。これからの活躍が期待されます。

土佐にはたくさんの人材がいます。その人たちに県内で活躍してもらうにはどうすればいいでしょう。それには危機意識をもって、全員参加の社会をつくることです。子育てや介護中の人、障害を持っている人もみんなが参加できる、働きやすくて生産性の高い社会をつくるための知恵を見つけなくてはいけません。その知恵を提供できるのが大学という場所。高知県にとっての一番の知恵袋は、高知大学だと思います。

学内外でキラッと光る
高知大生をピックアップ!

キラ星高知大生

高知県高坂学園生涯老人大学での講演

大学院
総合人間自然科学研究科
人文社会科学専攻
呉（オ） 琇賢（スヒョン）さん

木浦大学教授の来高（高知大学）

木浦大学教授の来高（仁淀）

韓国LGツインズ秋季キャンプの司会（通訳）

韓国と高知をつなぐ懸け橋に

大学院で社会福祉を学ぶ留学生は、「木浦の母」のひ孫

母が運営する児童福祉施設で育って

「韓国の学生が日本に留学する場合、留学先には東京を選ぶのが一般的です。でも、私は高知に行かないといけないのではないか。高知で何かの役割があるのではないかと思いました。きっかけとなった曾祖母に感謝しています」

日韓国交正常化50周年を迎えた2015年、高知大学大学院に留学した呉 琇賢（オ・スヒョン）さんは語ります。呉さんの曾祖母は高知県出身。韓国南部、木浦（モッポ）の孤児施設で多くの孤児を育て、「木浦の母」といわれた田内千鶴子さんです。呉さんも子どもの頃から、田内さんの孫である母親が運営する児童福祉施設内で育ちました。

将来、私も家族と同じ社会福祉の道に進みたい。やがて、こう思うようになった呉さんは、地元の木浦大学に入学し、社会福祉を専攻。2年生の時には卒業後、日本に留学することを決め、日韓交流にも貢献できれば…という思いから、曾祖母の故郷にやって来ました。大学院での学びのテーマも社会福祉です。

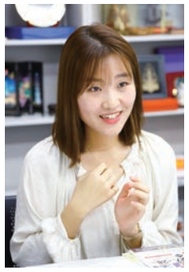
「社会福祉のなかでも、学生ボランティアについて学んでいます。韓国では学生ボランティアが制度化されていて、中高生は年間20時間の活動が義務付けられ、大学受験の際の評価ポイントにもなっているんです。しかし、制度としては確立していますが、教育としては有効なんだろうかという疑問がありました」

より機能させるにはどうしたらいいのか?呉さんは高知大学大学院で、その対策を考え続けています。

高知に来て、視野が大きく広がった！

呉さんは大学院での学びのほかに、「高知SGG善意通訳クラブ」というボランティア活動にも力を入れています。高知でキャンプをする韓国プロ野球チームの歓迎セレモニーといった、大きな舞台でも活躍。こうした活動を通じて、呉さんは自分が成長したことを感じています。

「いろいろな人と会うことによって、積極的な行動を取れるようになりました。以前は、何か新しいことを始めるのが不安だったのですが、いまは何にでも挑戦してみたい。これが高知に来てからの大きな変化ですね」



田内（たうち） 千鶴子（ちづこ）さん

高知市出身。1919年、7歳の時に朝鮮半島に渡る。孤児施設「木浦共生園」で約3000人の孤児を育て、「木浦の母」と呼ばれる。その功績により、日本人として初めて、大韓民国文化勲章国民章を受章した。56歳で死去。市民葬には約3万人が集まって別れを惜しんだ。『木浦共生園』は現在、児童福祉施設「共生園」として運営されている。

大学院で学びを深め、地域のボランティア活動も行ううち、「韓国と高知をつなぐ役割をしていきたい」と呉さんは強く思うようになりました。高知県内の学校などで韓国の観光文化の話をする際には、曾祖母の活動も紹介しました。また、木浦に帰るたびに、友人知人に高知や高知大学の良さをアピール。その1人、呉さんの恩師である教授が心を動かされ、2016年夏には高知大学を訪問して交流したそうです。

「東京に留学していたら、個人的な勉強だけに集中していたと思います。高知に来て、視野が大きく広がり、自分の使命についても考えるようにもなりました。高知大学に留学して、本当に良かった」と呉さんは顔をほころばせます。

留学当初、2年が過ぎたら、すぐに韓国に帰ろうと思っていたという呉さん。いまは日本で働きながら、社会福祉の勉強をさらに続けるという選択肢も考えているそうです。

ぼくらのキャンパスライフ

高知大生の今にエール!

スポチャンって、楽しすぎ！

エアーソフト剣で、ブンブン打ち合う！

「チャンバラ」といえば、子どもがおもちゃの剣を手に、たたかいごっこをするイメージ。しかし、これに「スポーツ」という言葉が付くと、世界大会も開催されているほどの立派な競技になります。この「スポーツチャンバラ」の同好会が、2016年春、高知大学に誕生しました。

盾長剣の試合

長剣の試合

では、「スポーツチャンバラ」とは、いったいどんなものなのでしょうか。部長を務める頭本紗樹（かしらもと さき）さん（理学部1年）と、創立の立役者である加藤広也さん（教育学部3年）に解説してもらいました。

「空気を入れて膨らませた、やわらかいエアーソフト剣で打ち合います。つける防具は面のみですが、打たれてもそんなに痛くはありません。頭から足まで全身どこを打ってもOKで、1回当てれば勝負が決まる一本勝負です」

実際に2人で打ち合ってもらうと、想像をはるかに上回る大迫力！剣道とは動きがまったく違い、剣を持った腕を思い切り伸ばして、払ったり突いたりします。警棒などを使う護身術として始まったそうですが、確かにとても実践的なスポーツのようです。

加藤 広也さん
（教育学部3年）

かしらもと さき
頭本 紗樹さん
（理学部1年）

スポーツチャンバラ同好会

現在、メンバーは5名。練習は毎週月曜と木曜の午後7時半から9時、高知市総合体育館で行われている「土佐龍馬スポチャンクラブ」の練習に参加。メンバーのレベルが高いので、初心者でもすぐに上達するのは間違いなし!

世界大会の準優勝者も！じつはレベルの高い同好会

頭本さんがスポーツチャンバラ、略して「スポチャン」を始めたのは小学3年の時。「近所にあった道場で体験してみたら、すごく楽しくて。以来、ずっと続けています」と話します。経験はすでに10年で、地域の大会で何度も優勝したことがあるほどの腕前です。

一方、加藤さんは剣道2段。大学2年の時、地域の愛好家の集まりである「土佐龍馬スポチャンクラブ」に参加するようになり、「剣道とは違う面白さにはまりました」といいます。2016年、高知大学に頭本さんらスポチャン経験者が2人、入学するという情報を入手し、勧誘して同好会を結成しました。まだメンバーが少ないこともあって、毎週、「龍馬スポチャン」の練習に合流。練習は実戦形式がメインで、激しく打ち合いながら技術を磨いています。

素早い動き！現代のチャンバラもなかなか、やるな。

スポチャンは試合が多く、毎月のように何らかの大会が開催されています。四国にはほかに愛媛大学と松山大学にサークルがあり、大会のたびに交流を深めているそうです。11月には東京で開かれた世界大会にも参加。「両手長剣初段の部」で、加藤さんが見事、準優勝に輝きました。発足1年目の同好会とは思えないレベルの高さです。「目標は世界大会の優勝です」と声をそろえる2人。ぜひ、この広報誌『Lead』に朗報を掲載したいものです！

関西・北陸・中国・四国学生大会で
頭本さんがグランドチャンピオンに

世界大会で準優勝に輝いた
加藤さんの賞状とメダル

診察室

医学部医学科　医療面接実習
「模擬患者」に向かい合い、「医師」役の学生が初診療

患者さんと信頼関係を築き、より良い医療を行うため、いまの医師に強く求められるコミュニケーション力。その能力の養成に向けた興味深い実習を紹介します。

診察室を模した一室で、医学科の4年生が模擬患者を問診

今、医療の現場では、患者さんと上手にコミュニケーションを図りながら診療することが重要視されています。その能力育成を目指して行われているのが、実際の診療現場を模した実習。どういった内容の学びなのか、「医療面接実習」の現場をレポートしましょう。

「医師」役である4年生の医学科学生が、部屋に女性の「患者さん」を呼び入れて向かい合いました。やや緊張した面持ちの「医師」が「患者さん」に話しかけます。

●医師　今日はどうされましたか？
●患者　はい。胃が痛くて…。
●医師　どのような痛みでしょう？
●患者　はじめはチクチクしていましたが、だんだんキリキリするようになって。そのうち背中も痛むようになりました。
●医師　痛みはどれほど続いていますか？
●患者　ここ1週間ほどです。
●医師　どんな時に痛みますか？
●患者　夕方、食事の準備をしている頃が一番ひどいですね。でも、食べたら楽になります。
●医師　胃が痛いこと以外で気になることは？
●患者　特にはありません。
●医師　血圧はどうですか？
●患者　普通ですね。
●医師　大きな病気をしたことはありますか？
●患者　ありません。
●医師　ご家族で何か病気をされた方はいますか？
●患者　父が55歳の時、胃がんで亡くなりました。母は随分前から糖尿病です。

こういった、まさに医療機関の診療室で行われるような会話が約10分間続きます。この様子をビデオカメラで撮影。指導教員や他の学生たちが待機する別室の大型モニターで、一部始終を流します。模擬診療を実際に体験でき、加えて、他の学生の問診の仕方などを客観的に見ることができるという、じつに画期的な実習です。

シナリオを覚えて、真剣に患者を演じるSP〈模擬患者〉

実習で「医師」役の学生と向き合う「患者さん」は、本当に病気になった人ではありません。「SP」（「シミュレーテッド・ペイシェント」の略語）と呼ばれる模擬患者です。

「医学科の学生は5年生になると、臨床実習に出ますが、その前に全国共通の共用試験を受けて、基本的な診療技能とコミュニケーション能力もチェックされます。この試験に合格しなければ、臨床実習で本物の患者さんの前に出ることはできません。そこで、全国の大学では、学生のコミュニケーション能力を高めるべく、力を入れるようになりました。その学びの現場や共用試験などで、患者役を演じるのがSPです」

医学部教授の関安孝先生がこう解説します。関先生は前任地の岩手医科大学薬学部でSPの養成に取り組んでいました。2015年に高知大学に赴任後は、自らもSPとして活動。高知大学医学部の呼びかけで発足した「高知SP研究会」の代表も務めています。

SPはみなさん、ごく普通の一般市民です。主婦や事務員、元看護師などで、何か社会に貢献したいという人、会話が好きな人、市民劇団に所属する人など、さまざまな人たちが活動しています。SPになるには、1回2時間程度の講習を数回受講。「高知SP研究会」では、岡山や東京、大阪などで開かれる講習会に参加することもあります。

SPは学生の本気を引き出すため、患者役になり切るのが使命。事前にシナリオの内容をしっかり覚えて、大学で行われる実習にのぞみます。

「シナリオには、胸が苦しい役、胃腸の具合が悪い役、血圧が高い役など、さまざまなパターンがあります。年齢や家族構成、普段飲んでいる薬、病歴、単身赴任かどうか、子どもは何人か、受験勉強でピリピリしていないか、といった細かいところまで設定されています。SPはこれらを覚えイメージをふくらませて、いわば"役作り"をするわけです」

医師役の学生と患者役のSPとのやり取りを「ロールプレイ」と呼びます。関先生は実際にSPを演じてみて、「ロールプレイは非常に面白い。学生たちの役に立っているという励みもあって、どんどんはまっていきました」と話します。

診療中に気づいたことを学生に伝えて、改善へと導く

関先生によると、学生たちはとても緊張して実習に臨むそうです。学生同士で診療の練習をしているのですが、本格的な模擬診療は初めてなのですから、無理はないかもしれません。

「ひと言、ふた言、話すうちにリラックスしていく学生がいれば、最初から最後まで緊張しっぱなしの学生もいます。ただ、あくまでも練習なので、うまくいかない部分があってもかまいません。むしろ、うまくいかない経験をすることが大事だと思います」

足りなかった部分を学生が自覚し、改善につなげられるように、また、適切に対応できたことに自信を持ってもらうために、ロールプレイのあとは「患者さんの声」を直接伝える「フィードバック」の場が設けられます。

「ロールプレイ中、SPは学生の対応の良い点や気になるところを見つけ、会話を続けながら覚えておきます。患者さんになり切って演技をする一方で、第三者の俯瞰的な視線も必要になるわけです。フィードバックの際には、学生が頑張ろうと思えるような言い方をするのも大事です」

求められるレベルが高い分、大きな充実感も得られるというSP。地域や大学によって、取り組みに対する力の入れ具合は大分違っているそうですが、「高知大学では、研究会が養成したSPでほぼまかなえています。全国でもうまくいっているほうだと思いますよ」と関先生が語ります。

現在、「高知SP研究会」で活動しているSPは約15人で、さらに2～3人がこれから加わろうと勉強中とのこと。高知大学医学部では、医師養成のために、SPを募集しています。興味のある方は、ぜひどうぞ！

平成29年度 高知大学医学部
模擬患者(SP)さん募集！

高知大学医学部では一般市民のボランティアとして、
模擬患者(SP)を募集しております。
平成29年1月22日(日)に説明会がありますので
ご興味のある方はぜひご参加ください。

〈申し込み・お問い合わせ先〉
高知大学医学部 学生課教務係
TEL.088-880-2262　FAX.088-880-2264

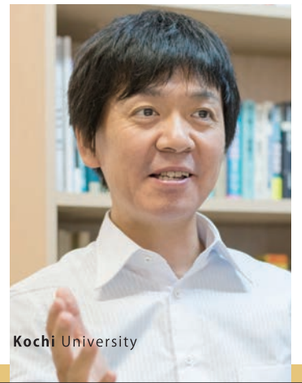
すごく緊張しました。これまで学生同士で何度も模擬診療はしていますが、どうしても、"ごっこ"みたいな部分があります。SPさんは患者さんになり切っていただけるので、本当に勉強になりました。会話のなかで間が空くことが多かったので、そうしたところを改善していきたいと思います。

学生　医学部　医学科4年生　宮﨑 友里（みやざき ゆり）

患者さんのことを思いやることのできるお医者さんになってくれたらいいな、そのために役に立てればと思ってSPに取り組んでいます。シナリオを覚えるのは大変ですが、できるだけ役になり切るように努力しています。

SP模擬患者　SP歴／7年　藤村 洋子（ふじむら ようこ）さん

SP歴／10年余り　三谷 眞由美（みたに まゆみ）さん



教育研究部　医療学系
医学教育部門　教授
関 安孝（せき やすたか）

新潟県出身。長岡技術科学大学卒業。博士（工学）。専門は分子生物物理学、生体生命情報学。研究とは別にSP養成と自らSPを演じることに熱中。「まだ赴任2年目で、学生にあまり顔が割れていない（笑）。教員だと認識されるようになったら、学生が緊張するので、実習でSP役はできなくなるでしょうね」と少し寂しそうに語る。

高知大学ニュース

理工学部キックオフシンポジウム

平成29年4月に理工学部始動！理解を深める

11月23日に高知市内で「平成29年4月 理工学部誕生！」～魅力ある理工学教育、多様な人材育成プラン、そして未来の高知への確かな貢献を目指して～と題して理工学部キックオフシンポジウムを開催しました。高校生、一般の方々を含む約130名が、平成29年4月に新設する理工学部の理解を深めました。

理学部を改編する理工学部は、これまで培われてきた論理的思考を重視する理学教育と実用を重視する工学教育との融合を目指し、①数学物理学科、②情報科学科、③生物科学科、④化学生命理工学科、⑤地球環境防災学科の5学科体制でスタートします。

シンポジウムでは、脇口宏学長の挨拶に始まり、島根大学総合理工学部長の廣光一郎氏及びチカミミルテック株式会社代表取締役社長の千頭邦夫氏による基調講演とともに米村俊昭理学部副学部長が新学部の特徴を説明し、さらに教員による各学科紹介が行われ、参加者からも新学部誕生の意義への理解や今後の期待が寄せられました。

▲教員による各学科の説明

脇口学長の挨拶▶

教育学部生涯教育課程 芸術文化コース「第17回 芸文展」

最後の「芸文展」、好評のうちに閉幕

教育学部生涯教育課程芸術文化コース3年生による美術展覧会「芸文展」を12月6日～11日に高知市文化プラザかるぽーとで開催しました。平成26年度の教育学部組織改編により、生涯教育課程芸術文化コースとしての「芸文展」は、今回が最後となりました。本展のテーマは「O-origine-」。学生はこの展覧会に向け、様々な想いを胸に作品を制作、ひとつの命を創るような作業の中で、それぞれが喜びや苦しみを乗り越え、完成させました。また12月10日には県内の中高生を対象に美術鑑賞のワークショップも行い、好評を博しました。

芸術文化コースは、特設美術・工芸課程からの伝統を受け継ぐ歴史あるコースとして美術教員を多く育成してきました。また、美術教員だけでなくデザイナーや学芸員、実業家として活躍する人材も輩出しています。現在では、県内外で活躍する卒業生とのネットワークも非常に重要な絆となっており、今後は、先輩たちが築いてきたこの伝統と絆を地域の芸術文化の推進に活かしていきます。

林野庁四国森林管理局と連携協定を締結

森林に関する取組の更なる深化へ

高知大学と林野庁四国森林管理局との連携と協力に関する協定締結式を10月21日に執り行いました。高知大学からは脇口学長、櫻井理事（総務・国際・地域担当）ら、林野庁四国森林管理局からは大山局長、木村業務管理官ら双方合わせて16名が出席し、脇口学長と大山局長が協定書に署名を交わし連携協定を締結しました。

高知大学は、平成27年に農学部（現：農林海洋科学部）と林野庁四国森林管理局との間で連携協定を締結していましたが、近年、農林海洋科学部以外の学部においても新たな取組が開始されていることから、これまでの学部間協定を全学協定に発展・進化させ、それぞれの人材や資源の活用を通して、森林の有する多面的機能の持続的発揮や活力ある個性豊かな地域社会の形成と発展に資する調査研究及び人材育成等の推進を図ることとしています。今後は、合同シンポジウムの開催や研究フィールド協力、双方の人員派遣、魚梁瀬林業史研究と森林鉄道日本遺産申請に向けた連携事業を実施することとしています。

伝統の「室戸貫歩」を開催

地元の方々の応援を受け、室戸岬を目指す

空手道部主催の第56回室戸貫歩を11月26日（土）・27日（日）に開催しました。高知大生をはじめ教職員市民ら452名の参加者は、午前9時に朝倉キャンパスをスタートし、室戸岬までの約90キロの道のりを夜通し歩き、制限時間30時間以内でのゴールを目指しました。沿道では、深夜にもかかわらず温かい豚汁、おでん、おにぎり、果物などのサービスを地元住民から受け、参加者の疲れもやわらぎました。

日付が変わる頃に雨が降り出し、全身ずぶ濡れになりながらも思いを込めて足を進めた約260名がゴール地点の室戸岬の中岡慎太郎像前まで貫歩しました。

雨に降られたものの、無事貫歩！

第1回 学長杯 日本語スピーチコンテスト

留学生の想いに参加者から驚きや感動の声

11月30日に、「第1回学長杯留学生による日本語スピーチコンテスト」を開催し、中国、韓国、モンゴル、ネパール、インドネシア、タイ出身の留学生11名が、「私の見つけた日本」、「自分の夢」をテーマとして発表しました。会場には、学内外から約100名の参加があり、脇口学長をはじめとする関係者のほか、地域の国際交流団体も審査に加わり、「心が温かくなったで賞」、「新しい日本を見つけたで賞」など、出場者全員にそれぞれの発表に応じたネーミングの表彰状と記念品が授与されました。

最優秀賞には、「日韓の懸け橋に」と題して発表した韓国の留学生張昇勲（チャンスンフン）さんが選ばれました。参加者からは、「留学生の日本語の流暢さに驚いた」、「いろいろな国の事情や、客観的に見た日本を知ることができた」、「留学生が堂々と夢を語る姿に感動し、勇気をもらえた」などの感想が寄せられました。

◀脇口学長から最優秀賞のトロフィーなどを授与された張昇勲さん

スピーチ中の様子▶

高知大学修学支援基金の設置

このたび高知大学では、経済的理由により修学が困難な学生の修学支援を目的とした「高知大学修学支援基金」を設置し、寄附の募集を開始しました。

政府において返済を必要としない「給付型奨学金」の検討が進められ、学生の修学支援に対する社会的な関心が高まる中、本学においても、学費を確保するために休学あるいはやむを得ず退学を余儀なくされるなど、経済的理由により修学が困難となる学生が増加しています。このことから、教職員が一丸となって、卒業生をはじめ、高知県内の企業、県民の皆様に対して広く寄附を募り、その財源を基に更なる奨学事業を実施します。皆様のご支援をよろしくお願いします。

お問い合わせ／**高知大学総務部総務課**
TEL:088-844-8100　FAX:088-844-8738　E-mail:sj02@kochi-u.ac.jp

高知大学が THE 世界大学ランキング 2016-17にランクイン

初のランクイン！研究と国際性で高評価

タイムズ・ハイヤー・エデュケーション（Times Higher Education＝THE）世界大学ランキングは、世界中の約18，000校ある大学を教育、研究、知識移転、国際性等の面から総合的に評価し、上位980校のランキングが毎年9月に公表されます。今回このTHE世界大学ランキングに、高知大学が初めてランクインしました。ランク入りは大学の質の高さを世界的に示すものです。注目すべきは、研究の影響力を示す「論文被引用数」では日本の大学の中で7番目、国際性を示す指標では15番目に入っていることです。